

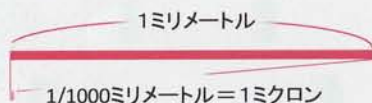
超微小・不死の生命体 ソマチット

■「ソマチット」とは？

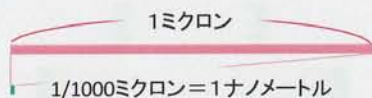
ソマチットとは、顕微鏡の研究者でフランス人のガストン・ネサンによって発見された超微小生命体です。

- ・人間の体内に細胞の数(60兆)の何十～何千倍も存在する。
- ・動物、植物、バクテリアなどすべての地球生命体の中に存在する。
- ・どんな条件下でも死なない生命体。
例)1000℃、-30℃、無酸素、塩酸中、硫酸中、超高压化、高レベルの放射線…
- ・2500万年、5億年前の化石の中でも生きている。
- ・バクテリアやウイルスとは別格の生命体。

▼ソマチットはこんなに小さい



赤血球



ソマチット

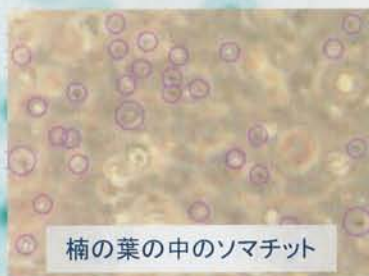
80ナノ
(最少0.5ナノ)

赤血球が20cmのボールだとしたら、ソマチットは2mm以下

■免疫・恒常性維持機能 (ホメオスタシス)を担う「ソマチット」

ソマチットが活発に動いていると、生活習慣病にかかりにくいなど、免疫の基本を担っていると言われています。(※)

- ・植物には人間のように白血球やリンパ系はないが、免疫機能があるのはソマチットのおかげと考えられる。



※ 細胞のさまざまな活動に必要なエネルギーのほとんどは、直接、あるいは間接的に細胞内にあるミトコンドリアから供給されます。ミトコンドリアはそれ以外にも多様な機能を持っており、様々な代謝、カルシウムや鉄の細胞内濃度の調節などにも大きく関わっているとされます。

ソマチットは、そのミトコンドリアに対してエネルギーの供給をおこなっているといわれています。

■体内環境が悪化すると 「ソマチット」は引きこもる！？

強い薬や病気などによって体内環境が悪化すると、ソマチットにとって居心地が悪い場所になります。すると、周りの細胞を利用してシェルター(殻)をつくって逃避をします。活動するソマチットが少なくなることで、さらに免疫が低下してしまうのです。

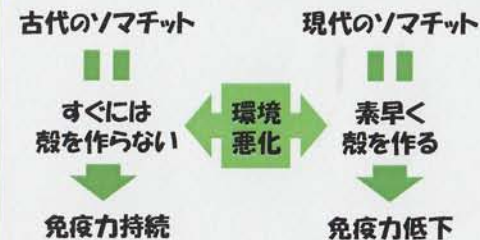


■古代ソマチットのパワー！！

中国の漢方：竜骨(ボレイ)は、恐竜やマンモスの化石で、古くからそれを食べると健康になるとされています。しかしその中には効くものと効かないものがありました。効くのは地殻変動などで急死した生物の竜骨で、それはソマチットが中に閉じ込められてしまうからです。



また、現代ソマチットと古代ソマチットを比較してみると、最悪の時代を生き抜いた古代ソマチットは体内環境が悪くても、すぐにはシェルターをつくりません。ですから古代ソマチットを摂ることで免疫の維持・強化ができるのです。



■風化貝化石は古代ソマチット

2500万年前に北海道ができる過程で、海底が隆起し海中のカミオニシキ貝がいきなり生き埋めになりました。その際ソマチットは海中に逃げる間もなく、貝の中に閉じ込められてしまったのです。そこでソマチットは貝のカルシウムでシェルターを作り、悠久の時を越えて眠っていたのです。



参考文献:「古代生命体ソマチットの謎」宗像久男・福村一郎(冬青社)